

業務運営進行表

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

所属	局名	部名	室・課（出先は所属）名	所属のホームページ
	教育局		秦野総合高等学校	http://www.hadanosogo-ih.pen-kanagawa.ed.jp/index.html

I 業務概要

本校は、再編統合により平成20年4月に開校した単位制による全日制と定時制の総合学科の高校で、多彩な教育を提供しています。
公立高校としては、県内唯一の天文台を設置した学校として知られています。
また、部活動が盛んで、毎年確かな成果を残しています。



II 収支の状況

(単位：千円)

		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	出納整理期間	累計		
収入	収入科目	年間計画額						収入済額	
	使用料及び手数料	29,364	70	4,057	28,796	24,337	57,259		
	諸収入	1,765	254	631	353	385	1,624		
	収入計(A)	31,128	324	4,688	29,149	24,722	0	58,883	
支出	事業経費	項目						(再)配当額	支出済額
	事業費	66,293	2,296	5,683	30,141	27,658	515	66,293	
	維持管理費	26,890	3,567	6,638	5,636	7,722	3,328	26,890	
	計	93,184	5,863	12,321	35,777	35,379	3,843	93,184	
	人件費 (注1)		215,777	147,904	222,318	153,906		739,905	
支出計(B)		221,640	160,225	258,095	189,286	3,843	833,089		
差額(A)-(B) (注2)		△ 221,315	△ 155,537	△ 228,946	△ 164,564	△ 3,843	△ 774,206		

(注1) 人件費には職員数に共済費及び退職手当の平均単価を乗じて算出した共済費相当額(事業主負担分)及び退職手当相当額が含まれています。

(注2) 差額の△(マイナス)には、県税や県債、国庫支出金等を充当しています。

(注3) 各項目毎に千円未満四捨五入を行っているため、各計欄は各項目を合計したものと一致しない場合があります。

III 職員配置状況

配置職員数	区分	4月1日	7月1日	10月1日	1月1日
	常勤職員	71	72	71	71
	上記以外の職員	57	60	60	59
	計(人)	128	132	131	130

IV 業務実施状況

1 生徒数の状況(平成27年4月1日現在)

全日制

		1年	2年	3年	合計
学級数		8	6	6	20
生徒数	男	133	139	136	408
	女	105	95	102	302

定時制

		1年	2年	3年	4年	合計
学級数		2	2	2	1	7
生徒数	男	10	14	12	6	42
	女	7	11	19	4	41

2 年間行事予定

全日制

4月	始業式 入学式	10月	定期試験Ⅲ 地域貢献デー
5月	定期試験Ⅰ 全国・関東大会壮行会	11月	生涯スポーツ系列発表会
6月	陸上競技会	12月	定期試験Ⅳ
7月	定期試験Ⅱ	1月	卒業試験 2年研修旅行
8月	学校体験入学・説明会	2月	入学者選抜学力検査
9月	文化祭	3月	卒業式 定期試験Ⅴ 終了式

定時制

4月	始業式 入学式	10月	体育祭
5月	前期中間テスト	11月	後期中間テスト 文化祭
6月	防災訓練	1月	卒業テスト
7月	前期期末テスト	2月	入学者選抜（共通） 後期期末テスト
9月	地域貢献活動	3月	卒業式 入学者選抜（定通分割） 終了式

3 進路の状況

全日制

		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
卒業生数		227	232	237	235	235
進学	4年制大学	61	73	86	82	82
	短期大学	28	36	25	23	25
	専門学校・各種学校	81	72	83	65	77
就職		37	46	26	45	37
その他・進学準備等		20	5	17	20	14

定時制

		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
卒業生数		23	41	42	30	34
進学	4年制大学	1	0	1	1	0
	短期大学	0	0	0	0	0
	専門学校・各種学校	1	8	10	9	14
就職		2	26	6	7	9
その他・進学準備等		19	7	25	13	11

V 業務運営に関する評価

1 平成27年度の学校目標・評価

全日制

<教育課程>

生徒の多様な進路希望に対し、生徒にわかりやすい総合学科としてのカリキュラム編成を再検討し実現を図る。

(学校評価)

・丁寧な指導を行い、進路の意識を持たせながら特色ある科目選択をさせることができたが、進路未定や変更に対する対応に問題があった。

・「いのちの尊重に関する教育」はこれまでの取り組み・成果をまとめ、次につながる研究ができた。

<生徒指導・支援>

- ・生徒の規範意識の確立を図り、豊かな心の育成に向けた取組みを充実させる。

(学校評価)

- ・きめの細かい生徒指導を行うことができ、特別指導の件数が昨年より減少した。
- ・教育相談を利用する生徒・保護者は依然として多く、スクールカウンセラーの有効利用は行えたが、外部機関との連携等に課題が残る。

<学習指導・授業改善>

- (1) 基礎的学力の定着と発展的学力の伸長を図る。

- (2) 授業改善による生徒主体の授業を推進する。

(学校評価)

- ・各教科で基礎学力を重視し、何を学ばせるかについて共通の理解の下に取組みを行った。
- ・ITCの活用やアクティブラーニングなど生徒が主体的に学ぶ機会を授業の中に組み込み、生徒の関心や意欲を引き出し、主体的な取組みをサポートできた。

<キャリア教育>

- (1) 生徒の進路実現に向け体系的なキャリア教育を実施する。

- (2) 授業や部活動を通じてリーダーの育成と社会性の向上を図る。

(学校評価)

- ・キャリア教育は計画をほぼ遂行し、各年次における有効な取組みが行えた。特に3年次は生
- ・キャリア実践プログラムには生徒の実態に合わないものや、職業体験のように参加数が少ないものもあり、あり方は再考を要する。
- ・授業における発表や行事への参加などをさらに拡充させ、生徒には更なるリーダーシップの育成を図る必要がある。

<地域連携>

- (1) ボランティア活動、あいさつ運動を核とした地域との連携を深める。

- (2) 防災教育の充実を図る。

(学校評価)

- ・部活動のボランティアは、例年通りよい取り組みができた。地域連携の意識も強まり、質の高いボランティアができています。ただし部活動以外の生徒については消極的であった。
- ・あいさつ運動など地元小中学校との連携は生徒会役員や文化部生徒の参加もあり、評価できる。
- ・DIG訓練等も取り入れ、生徒・職員に防災への意識を持たせることができた。

<学校運営・管理>

- (1) 安全管理・危機管理等を踏まえた連携体制を整備する。

- (2) 年齢層の違いを踏まえた教職員の連携を通し、人材育成及び事故防止を図る。

(学校評価)

- ・研修等を通して若手職員の意識作りができた結果、学校運営に若手が積極的にかかわり、風通しのよい職場づくりができた。
- ・各業務で引継ぎが行われ、PDCAサイクルによって改善が見られた。
- ・業務分担やグループ組織等の改善はあまり進まなかった。
- ・不祥事防止の研修会を定期的実施し、職員の事故防止への意識を高めた。

定時制

<教育課程>

- (1) 個に応じた学習指導の推進

- (2) 外部の教育資源を活用した幅広い教育課程の編成

- (3) 人権教育の推進

(学校評価)

- ・個に応じた学習指導を行い、少人数学習やチームティーチングを取り入れ、生徒の学習状況に応じた指導を行い、成果を上げることができた。

<生徒指導・生徒支援>

- (1) 個々の生徒の状況の掌握と情報共有によるきめ細かな指導の推進

- (2) 自己肯定感の醸成による問題行動の未然防止

(学校評価)

- ・問題を抱えた生徒に適切な指導を行う体制づくりと職員の意識を向上させる取組みができた。
- ・巡回指導などの日常の活動により、生徒の問題行動を未然に防止することができた。

<学習指導・授業改善>

- (1) 生徒の興味・関心を高める組織的な授業改善の推進

- (2) 個に応じた学習支援の推進

(学校評価)

・小集団学習や教材を工夫することで、生徒の興味関心を高める指導ができた。生徒が主体的に授業に参加する取組みについては、今後とも継続する必要がある。

<キャリア教育>

- (1) 外部機関との連携によるキャリア教育の推進
- (2) 社会人として必要な道德心の育成

(学校評価)

・外部機関との連携を行ったことで、生徒の積極的な参加につながった。

<地域等連携>

- (1) キャリア教育と関連づけた地域貢献活動の推進
- (2) 特別活動の活性化による地域等との連携の推進

(学校評価)

・ボランティア活動に関心を持ち参加する生徒が増加した。日常の学校生活では体験できない教育的効果をいろいろな場面で得ることができている。

・定通芸術作品展の参加について、より多くの作品を出品することができた。

<学校運営・学校管理>

- (1) 防災教育の推進
- (2) 職員の学びあいによる人材育成の推進

(学校評価)

・防災教育においては、一定の成果を収めることができた。人材育成については、グループ業務の規定集を活用することで、経験の浅い職員を指導することができた。

連絡先 (電話番号)

0463-82-1400